

日 時 令和4年3月14日(月) 午前10時 開 議

出席議員 (16人)

1番	佐々木 隆	2番	黒石 ナナ子
3番	三上 廣大	4番	大平 陽子
5番	工藤 禎子	6番	大久保 朝泰
7番	大溝 雅昭	8番	後藤 秀憲
9番	今 大介	10番	工藤 和行
11番	工藤 俊広	12番	北山 一衛
13番	中田 博文	14番	工藤 和子
15番	村上 啓二	16番	村上 隆昭

欠席議員 (なし)

出席要求による出席者職氏名

市 長	高 樋 憲	副 市 長	有 馬 喜代史
総 務 部 長	鳴 海 淳 造	企 画 財 政 部 長	須 藤 勝 美
健康福祉部長 兼福祉事務所長	木 村 誠	農 林 部 長 農業委員会事務局長併任	中 田 憲 人
商工観光部長	真 土 亨	建 設 部 長	鳴 海 真 一
総 務 課 長	五 戸 真 也	総 務 課 参 事 兼防災管理室長	三 上 英 樹
市民環境課長	八木橋 寿	企 画 課 長	花 田 浩 一
財 政 課 長	工 藤 康 仁	健康推進課長 兼子育て世代包括支援センター所長 兼新型コロナウイルス感染症対策室長	今 野 弘 人
商 工 課 長	山 口 俊 英	観 光 課 長	西 塚 啓
土 木 課 長	高 橋 純 一	上 下 水 道 課 長	小 山 内 和 徳
農業委員会会長	木 立 康 行	監 査 委 員	今 田 貴 士
教 育 部 長 兼市民文化会館長	村 上 靖	教 育 委 員 会 理 事 兼指導課長兼教育研究所長	相 馬 保
指導課主任指導主事 兼教育研究所指導主事	武 田 勇 人	社 会 教 育 課 長 兼黒石公民館長 兼青少年相談センター所長 兼黒石ほるぶ子ども館長	村 元 裕
文化スポーツ課長	山 口 祐 宏		

会議に付した事件の題目及び議事日程

令和4年第1回黒石市議会定例会議事日程 第3号

令和4年3月14日(月) 午前10時 開 議

第1 会議録署名議員の指名

第2 市政に対する一般質問

出席した事務局職員職氏名

事務局 長	成 田 浩 基
次 長	太 田 誠
主幹兼総務議事係長	山 谷 成 人
主任 主 事	大 平 祥 弥

会議の顛末

午前10時00分 開 議

◎副議長(今大介) ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第3号をもって進めます。

◎副議長(今大介) 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

2番黒石ナナ子議員、16番村上隆昭議員を指名いたします。

◎副議長(今大介) 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

順次、質問を許します。

7番大溝雅昭議員の登壇を求めます。7番大溝雅昭議員。

登 壇

◎7番(大溝雅昭) 皆さん、おはようございます。新自民・公明クラブの大溝雅昭です。令和4年第1回定例会におきまして、一般質問をさせていただきます。

3月10日に青森県で新たに573人の新型コロナウイルス陽性が判明し、1日の感染者数としては2月16日の555人を上回り過去最多を更新したと思えば、翌日の11日には592人となり、たった1日で過去最高が塗り替えられてしまいました。オミクロン株は重症化せず、大したことがないと思われていたのですが、感染力が強く、既に死者数、重症者数は過去最大になっています。青森県では感染者数の高止まりが続いており、弘前保健所管内でも一向に減る気配を見せません。この状況を受けて、黒石市では、11日に新型コロナウイルス感染症総合対策本部会議が開かれ、3月12日から4月11日までを新型コロナウイルス感染症予防対策強化月間といたしました。

また、2月24日、ロシアがウクライナに侵攻を開始し、世界中に衝撃を与えました。侵略戦争は今日で19日目となりました。ウクライナの何の罪もない多くの市民や子供たちの命が奪われています。ウクライナからの難民は250万人を超え、東欧諸国の受入体制も限界に達しています。国連では難民の数は400万人以上になると試算しています。

ロシアは軍事大国、エネルギー大国であります。しかし、ロシアのGDPは世界2位の中国の10分の1しかありません。世界の中で11番目の国です。お隣の国、韓国よりGDPは低いのです。ちなみに、日本は3番目です。そんな国ロシアが、世界中を相手にして戦争を仕掛けているのです。この侵略戦争はロシア国民のためでないのは火を見るより明らかであり、長引けば、ウクライナの被害が広がるだけでなく、ロシア国民の生活も破綻してしまいます。一刻も早い停戦、終戦を願うものであります。

また、3月11日は東日本大震災の日でした。あれから11年の月日が流れました。死者、行方不明者は2万2209人に上ります。福島県双葉町では、いまだに全住民の避難が続いています。被災者の皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

21世紀は情報革命の時代と言われています。ICTが発達し、AIの活用が現実になっているこの時代に、自然大災害と放射能汚染、新型コロナウイルスによるパンデミック、ロシアによる侵略戦争、こんな3つの大きな悲劇が起こるとは誰が予想できたでしょうか。そしてそれは今もなお、現在も続いているのです。2022年は時代の大きな転換点になるかもしれません。

それでは、通告に従い質問をいたします。

1番目は、新型コロナウイルスワクチン接種についての質問です。

先ほども言いましたように、感染者の数は減るところか高止まりが続いています。まずは、3回目のワクチン接種について現状と計画についてお尋ねいたします。

2番目は、新型コロナウイルス感染症の影響に対する経済対策についての質問です。

アは、これまでの対策、効果についてですが、今年度行ったマッコ券やスタンプラリー等の実施の結果についてお尋ねいたします。

イは、これからの対策についてですが、これから行う経済対策についてどのようなものを計画しているのかお尋ねします。

3番目は、学校での新型コロナウイルス感染症の影響と感染対策についての質問です。

オミクロン株では年代ごとに見ると、10歳未満の感染者が多いのが特徴となっています。青森市、八戸市、上十三保健所管内などで小学校、中学校のクラスターが毎日のように発表されています。しかし、感染者が一番多い弘前保健所管内の学校等のクラスターは発表されておられません。保健所ごとに発表内容が違うことに違和感を覚え、誤解を与えるかと思えます。

感染が広がっている中で、授業、行事、児童生徒への影響について、11日の三上議員の質問

と重なりますがお尋ねいたします。

4番目は、地域おこし協力隊の活動状況についての質問です。

アは、活動状況、サポート等についてですが、この事業が始まって数年たつわけですが、これまでの協力隊の活動状況についてお尋ねいたします。

イは、これからの取組についてですが、協力隊の当市への定住や起業など、これからの取組についてお尋ねいたします。

5番目は、旧黒石小学校の活用についての質問です。

1月の記者会見で、市長が旧黒石小学校の利活用について、市内の小・中・高のアート教育の場を創出することを目的として、子ども美術館の利活用の検討を述べておりました。それはどのようなものか、そのほかにどのようなものを想定しているのかをお尋ねいたします。

おとといの12日の土曜日は、地元の中学校の卒業式でした。例年は招待があり、出席して子供たちの門出をお祝いするのですが、今年もコロナ禍で出席はかないませんでした。18日は、地元の小学校の卒業式です。コロナ禍の学校生徒は、活動、自由が制限されますが、子供たちにとってはそれが当たり前の学校生活になってしまいました。マスクを外した児童生徒の笑顔をあまり見たことがないという教職員の話もありました。子供たちの未来に幸多いことを願い、壇上よりの質問を終わります。

(拍手)

降壇

◎副議長（今大介） 理事者の答弁を求めます。市長。

◎市長（高樋憲） 新自民・公明クラブ大溝雅昭議員にお答えいたします。私からは、新型コロナウイルスワクチン接種についての3回目接種計画について答弁させていただきます。

3回目接種、いわゆる追加接種の計画についてですけれども、先行接種となっております医療従事者、高齢者施設入所者及び従事者につきましては、昨年12月以降、準備が整った施設から順次接種を行い、医療従事者は今年の2月17日、高齢者施設におきましては3月2日をもって当初計画に組み込んだ対象者への接種は完了いたしております。

3回目接種の対象者となる18歳以上の市民に対する接種につきましては、国の方針変更によりまして、2回目の接種完了からの接種間隔が8か月後から6か月後に短縮されたことを受けまして、当初計画を前倒しし、2回目の接種完了の時期ごとにグループに分け、今年1月17日から順次、接種券を送付し、一番早いグループで1月24日から予約開始、2月7日から接種を開始いたしております。

現在、主に昨年7月下旬から8月上旬頃に2回目接種を完了した市民に対し接種を進めておりまして、昨年10月までに2回目の接種を完了した市民への3回目接種は、今年の4月いっぱいをめどにおおむね完了する計画で進めております。

その他につきましては、担当部長らに答弁をさせます。

◎副議長（今大介） 農業委員会会長。

◎農業委員会会長（木立康行） 私からは、地域おこし協力隊のこれまでの活動状況についてお答えいたします。

農業分野における地域おこし協力隊ですが、平成30年度から農業経営に興味、意欲のある方を募集し、これまで5人の方が着任いたしました。女性が2人、男性が3人で、新規就農者として独立できるよう、りんご農家や野菜農家の下で農業研修を受けているほか、SNSやラジオを通じて黒石市のPR活動を行っております。

これまでの活動を見ると、協力隊の皆さんは各地域で開催される農業関係団体の催しやりんご協会・市主催の研修会にも積極的に参加しており、さらに女性の協力隊員は若手女性グループ組織の会合や地産地消のイベントにも参加するなど、地域に溶け込んだ活動を行っています。

昨年8月には、最初に着任した男性隊員が3年間の任期を無事終了し、9月から研修先である浅瀬石地区の園地を借り受け、りんご農家として新規就農いたしました。初年度から地区の共同防除組合のオペレーターにも従事するなど、地域の担い手として大きな期待が寄せられています。

次に、現在活動中の4人の隊員ですが、まず2人は、りんご農家での新規就農を目指し、牡丹平地区と六郷地区で研修を受けており、今年7月の任期終了後は、六郷地区の園地を借り受ける予定で、既に同園地での剪定作業で汗を流しています。

3人目の隊員は、将来、ワイン醸造所を設置することを目的に着任し、醸造用ブドウの栽培研修を受けてきましたが、ワイン醸造の技術研修は、コロナ禍の影響により2年間研修ができませんでした。この先の計画を一部修正することになりますが、隊員はとても前向きであり、将来の夢に向かって進んでおります。

最後に4人目の隊員ですが、初年度、山形地区のりんご農家の下で研修していましたが、本人が有機栽培の野菜作りをやりたいとのことで、昨年春から有機野菜を栽培している農業者の下で研修を受けています。残り半年間、有機栽培を学び将来的には厚目内地区で有機農業にチャレンジする予定です。

慣れないこの黒石市の地で、3年間頑張っている地域おこし協力隊の皆さんに感謝を申し上げるとともに、残りの活動期間のみならず、その先も地域で活動していただけるよう支援してまいります。

私からは以上です。

◎副議長（今大介） 商工観光部長。

◎商工観光部長（真土亨） 私からは、新型コロナウイルス感染症の影響に対する経済対策につ

いてお答えいたします。

これまでの対策、効果についてであります。令和3年度は、黒石飲食券発行事業、新型コロナウイルス感染症対策利子補給基金事業、黒石市飲食業応援補助事業、がんばろう黒石！マッコ事業、キャッシュレス決済導入支援事業、地産地消消費拡大PR事業として、食べて！飲んで！まるごとくろいし応援ラリーを実施し、黒石商工会議所が実施するプレミアム付き商品券発行事業と黒石エールマーケットプロジェクト事業に補助金を交付しております。

がんばろう黒石！マッコ事業では、1万1890世帯の方に市内店舗ごとで利用できる商品券や黒石製品の詰め合わせをマッコとしてお送りしました。事業者の方の新たな顧客獲得の機会の創出につながる効果があったと考えております。

また、キャッシュレス決済導入支援事業では114事業者から申請があり、129店舗でキャッシュレス決済を新規または追加で導入いただき、新しい生活様式への取組が進んでおります。

食べて！飲んで！まるごとくろいし応援ラリーは、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら令和3年12月24日より開始いたしました。当初、令和4年2月20日まで、応募に必要なシールの配布を行う予定でしたが、弘前保健所管内での新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大の影響を受け、令和4年1月31日で応募シールの配布を終了いたしました。2月24日で応募の受付を締め切り、1898通の申込みがあり、多くの方が店舗へ足を運んでいただくきっかけとなったと思っております。3月7日に抽選を行いましたので、今後、商品を発送することとしております。

次に、これからの対策についてですが、現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による燃油価格の高騰により、事業者の運営に支障が生じている市内の運送業者等を対象に、1事業者につき20万円の支援金を交付する黒石市燃油価格高騰対策支援事業を2月17日より実施しているほか、市内の飲食宿泊業者を対象として、1事業者につき30万円の支援金を交付する黒石市飲食宿泊業事業継続緊急支援金の受付を3月10日より開始しております。

また、国が実施している事業復活支援事業の売上げ減少率30%以上の条件を15%以上30%未満とし、範囲を広げ市内の小売、卸売業及び生活関連サービス業を対象に、1事業者につき10万円の支援金を交付する黒石市事業復活支援事業についても現在準備を進めているところです。

令和4年度には、キャッシュレス決済の利用促進のための事業の実施、黒石商工会議所が作成するサービス券つき市内飲食店パンフレットへの補助金の交付を予定しております。そのほか、県と連携し、新型コロナウイルス感染症に対応する経営安定化サポート資金の信用保証料を助成してまいります。

以上です。

◎副議長（今大介） 農業委員会事務局長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 私からは、地域おこし協力隊の活動状況についてのこれからの取組についてお答えいたします。

現在活動中の4人の地域おこし協力隊員ですが、そのうち3人が今年7月で、残る1人も9月で3年間の任期が終了となります。4人の隊員は活動を終えた後も当市に定住し、新規就農者として経営を開始する予定で、既に農地の借入れや苗木の準備など、将来に向けて動き出しています。市では、それぞれの隊員に合った青年等就農計画の作成、5年後の農業所得等の目標設定について、青森県や関係機関で構成するサポートチームと共に伴走型で助言・指導してまいります。

この先の定住ですが、国の調査結果による地域おこし協力隊のその後の動向については、任期終了後、約6割の隊員が定住するとした一方、数年後にはその約4割が同一市町村を離れるとしています。当市の隊員が理想とする暮らしや生きがいを持ち、ずっと定住していただけるようしっかりと支援してまいります。

以上です。

◎副議長（今大介） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 私からは、旧黒石小学校の活用として、どのようなものを想定しているのかについてお答えします。

旧黒石小学校の活用につきましては、議員の御質問にもありましたとおり、市内の小・中・高校のアート教育の場を創出することを目的とした子ども美術館として利活用できないか検討していくこととしております。そのほかにも、市民の芸術文化活動をするきっかけづくりや活躍できる場が必要と考えております。その環境整備を図ることで、市民の芸術文化活動に対する意欲の高揚や、本市の芸術文化を継承していく人材の育成にもつながるものと思っております。

今後は、子ども美術館をどのようにすれば実現が可能か調査及び研究してまいります。

以上です。

◎副議長（今大介） 教育委員会理事兼指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（相馬保） 私からは、新型コロナウイルス感染症の授業、行事、児童生徒への影響についてお答えいたします。

市内各小・中学校におきまして、新型コロナウイルス感染症に関連した授業の遅れや深刻ないじめ等の問題行動は今のところ報告されておられません。冬休み以降の学校行事につきましては、保護者による授業参観を中止にしたり、議員の皆様にも御理解と御協力をいただいているところでございますが、卒業式への参列者に制限をかけたりの対応を取っております。

新型コロナウイルス感染症による子供たちへの影響は、今のところ小さいレベルに抑えられ

ていると考えておりますが、教育委員会といたしましては、引き続き、健康観察の徹底や三密の回避等の一般的な感染対策を徹底し、感染対策を講じてもなお感染リスクの高い学習活動については慎重に検討するよう学校に要請してまいります。

以上でございます。

◎副議長（今大介） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎副議長（今大介） 再質問を許します。7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 御答弁ありがとうございました。時間もないので再質問に入りますので簡潔にお願いしたいと思います。

まずは、新型コロナウイルスワクチン接種への質問ですけれども、医療従事者や施設等の人はもう終わったということでしたけれども、今拡大が広がっている保育施設の職員、学校の教職員などの3回目の接種状況についてお知らせください。

◎副議長（今大介） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（木村誠） 教育施設や保育施設などの従事者への接種については、一般市民への接種とは別に調整し、計画的に接種を進めております。認定こども園や保育園などの従事者への接種は、本年2月と3月で接種日程を設け、集団接種会場及び個別医療機関で実施しているほか、接種予定日前にキャンセルが発生した場合に接種の対応をしていただける方のリストを作成し、なるべく早い段階で接種できるような体制で進めております。

また、教育施設については、3月と4月に日程を設け、集団接種会場で接種することとしております。

以上です。

◎副議長（今大介） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 職員等の接種を先行してやるということですので、よろしくお願ひしたいと思います。そういった中でですね、3回目、今市民に向けてやっているんですけども、オミクロン株の特徴について——3回目の接種率を上げるために、なぜ3回目の接種が必要なのかデータ等があればお知らせください。

◎副議長（今大介） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（木村誠） 現在、感染が拡大している変異株の一つであるオミクロン株は、昨年11月に確認された株で、これまでの他の株よりも潜伏期間が短い、感染しやすいことが特徴ですが、子供など若い世代での発症例が急増傾向にあることも特徴の一つとなっております。

また、デルタ株と比べると重症化率は低いという報告もあるものの、重症化するまでの期間

が短い、基礎疾患の悪化や合併症の併発での入院が必要になるなどの事例も報告されており、重症化しないからかかっても心配ないという考えは、さらなる感染拡大が懸念されるところでございます。いずれにしても、基本的な感染予防対策はこれまでと変わりありませんので、マスクの適正な着用や小まめな消毒、一つの密でも避けるなどの対策を各人が徹底することで、蔓延防止につながるものと考えております。

オミクロン株に対するワクチン接種の効果ですが、厚生労働省等の発表によると、1、2回目の接種における予防効果は、デルタ株と比較して低下は見られるものの3回目接種により回復することが示されており、時間の経過とともに低下する予防効果を持続させるため、また重症化を防ぐ意味でも3回目接種は一定の効果を持っているものと認識しております。

以上です。

◎副議長（今大介） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） オミクロン株の特徴として子供たちのほうの感染が強いということですが、けれども、5歳から11歳の接種の予定についてお知らせください。

◎副議長（今大介） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（木村誠） まず、3回目の接種に関わる接種率の見込みについてですけれども、3回目接種は初めてであり、接種率を見込むのは難しい状況ですが、現在の予約状況ですと、令和4年3月1日現在の予約率は84.7%となっております。

5歳から11歳への小児接種については、こちらも初めての接種で努力義務を適用していないこともあり、保護者の方々も周りの接種や副反応の状況等を見てから子供への接種を判断することも考えられ、接種率がどれくらいになるのか想定が難しい状況にあります。

ただ、オミクロン株が低年齢でも多く感染していること、感染者数が全県的に高止まり傾向であることから、感染予防の観点からも接種を希望する全対象者に対し、接種の機会を提供できる体制で臨んでおりますので、一人でも多くの市民に3回目接種及び小児接種を受けていただきたいと考えております。

以上です。

◎副議長（今大介） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 子供への接種ですけれども、副反応が怖いので子供には受けさせないという意見が結構あります。しかし、子供の感染者が増えますと、後遺症も増えてくるという可能性が指摘されています。強制、推奨ではありませんけれども、学校での感染拡大を防ぐためにも保護者にどうやって理解してもらおうか、その辺の努力が必要だと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

先ほどちょっと答弁がありましたけれども、3回目の接種率について青森県では現在、全国

より少し低い結果になっておりますけれども、接種率についてどのように見込んでいるかお知らせください。

◎副議長（今大介） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（木村誠） 先ほどの答弁がちょっと前後しましたので申し訳ありません。先ほどの5歳から11歳の接種計画についてお答えいたします。

小児接種についてですが、5歳から11歳を迎える児童が対象となっており、令和3年度中の対象者は約1500人で、市内2つの医療機関で3週間の間隔を空けて2回接種を行うこととされております。接種の日程ですが、国から今年度中に配分されるワクチンが300人分と限られていることから、まず、5歳から11歳のうち基礎疾患を有する児童の予約を優先的に受け付け、その後、現在小学校5学年の児童に接種券を3月1日付で送付し、本日3月14日から接種を開始しております。

今後の日程といたしましては、今後示される国からのワクチン配分計画に伴い、現在の小学校4学年から学年ごとに分け、順次接種を受けられるような体制を進めていくこととしております。

以上です。

◎副議長（今大介） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） ちょっと質問と答弁が前後しましたけれども、そういった中で接種率を高める努力ですね——義務でもないし、これは努力して接種率を高めることが、今の予防方法はこれしかないので、薬も認証されたとか言っていますけれども、なかなか広がってこない。やはり感染予防対策の一番はワクチンの接種ですので、ぜひとも多くの市民に受けていただくよう取組をよろしく願いいたします。

それでは、新型コロナウイルス感染症の影響に対する経済対策の質問ですけれども、今年度いろいろな事業をやられました。その中で、市民からどういう反応があったかお知らせください。

◎副議長（今大介） 商工観光部長。

◎商工観光部長（真土亨） まず、がんばろう黒石！マッコ事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大により低迷している地域経済全体の活性化を図るとともに、事業者の顧客獲得の機会を創出するため実施するものであります。お申し込みいただいた市民の皆様にお送りしたマッコの内容については、市民の皆様から様々な御意見を頂いているところでございますが、商品券や市産品の詰め合わせの組合せはランダムとなっておりますので、必ずしも希望に沿った内容とならない場合もございます。本事業の趣旨を御理解いただき、商品券が当せんされた市民の皆様には、ぜひこの機会に今まで足を運んだことのない店舗にも足を運んでいただき、今まで

知らなかった商品を知るきっかけとしていただきたいと思います。

また、マッコ事業でお送りした商品券については、弘前保健所管内の新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、利用期限を令和4年3月31日から6月30日まで3か月間延長しておりますので、ぜひ御利用いただきたいと思います。

次に、食べて！飲んで！まるごとくろいし応援ラリーについては、市内酒類提供店等の活性化を図るために実施したものであります。応募シールの配布期間は、新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大の影響を受け短くなったものの、多くの方に御参加をいただき、直接御意見等を頂いてはおりませんが一定の効果があったと思っております。

今後は、当せんされた方に順次商品を発送してまいります。商品として、黒石温泉郷の宿泊券や津軽塗、地酒セットなど、市内の事業者の商品を用意しておりましたので、ぜひ黒石温泉郷や黒石製品のすばらしさに触れていただき、再度利用や知人等への紹介をしていただきたいと思います。

以上です。

◎副議長（今大介） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 黒石マッコ券の事業について、よい話より悪い話のほうが結構聞こえてきます。誰も自分が得た話はあまりないので、使えない券が当たって損したとかですね、そういった話が結構聞こえてきました。しかし今、部長も言いましたけれども、多くの店を利用してもらうのが目的の一つなので、知らない店に行ってみるとか、また、使えそうな人がいればあげるとか、そういった感じで経済効果を高めていってもらえればよいのではないかと考えます。飲食店、宿泊業ばかりに支援が多く向けられているんですけども、この事業は全て幅広く関連しており、広い業種で新型コロナウイルスの影響が出ているので、私はいろいろな話を聞きますけれども、この事業についてはそれなりに評価するものだと思っております。

スタンプラリーについては、ちょうど感染拡大と重なって、利用者、店側もちょっとちゅうちょする難しい事業になったかと思えます。それでも今、1800通もの応募があったということで、それなりの成果はあったのかなと思っております。これからの対策についても先ほど計画を伺いましたけれども、感染の拡大、そして長期化の傾向を見せており、ほかの市町村でも独自の対策をいろいろ行っていますので、当市でも対策はまだまだこれからも必要になってくると思っておりますので、その辺の対応をよろしくお願ひしたいと思います。

観光のほうに入るんですけども、この間、新型コロナ対策として観光のPRということで、BSの「ウチの歴史、知りませんか」という番組を見ました。市長も出演されておりました。黒石の魅力をたっぷり宣伝する番組だったと思えますけれども、制作に幾らかかりましたか。まず、そこからお知らせください。

◎副議長（今大介） 商工観光部長。

◎商工観光部長（真土亨） 制作費といわゆる放送料ですね、合わせて約1000万円です。

◎副議長（今大介） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 結構なお金がかかっているわけですがけれども、これからどのように活用していくのか。また、どのように黒石をPRしていくのかお知らせください。

◎副議長（今大介） 商工観光部長。

◎商工観光部長（真土亨） この番組は新型コロナ収束後の観光誘客を目的に市の魅力を全国に発信するという事で、特別番組を先月26日、BS朝日にて全国放送いたしました。市を舞台に歴史と文化からひもとく今までにない切り口で番組を制作し、また、番組内のコマーシャルについても市提供のため市を紹介するオリジナルのものであり、1時間オール黒石の番組となりました。放送後は県外からも反響があり、ぜひ訪れてみたいとの声も聞かれております。

この番組の著作に関しましては、当市とテレビ制作会社が共同保有することから、市内観光施設等での映像再生やSNSでの活用を予定しております。

新型コロナウイルス感染症の拡大がまだ収束する兆しが見えておりませんが、収束後には放送を御覧になった皆様にもぜひ訪れてもらい、皆様の目でその魅力に直接触れてもらいたいと願っております。

以上です。

◎副議長（今大介） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） まだまだコロナ禍でありますけれども、番組を作るのが目的ではなく、それをどう活用するのか、そしてそれがいかに黒石の観光につながっていくのか、これからは腕の見せどころだと思いますので、頑張ってくださいようよろしくお願いいたします。

次に、学校での感染症の影響と対策についての質問ですがけれども、学校等で授業等にはあまり影響が出ていないということでした。しかしながら、学校行事、部活、授業などに生徒や保護者、そして教職員がどれほど神経をすり減らしていたかは想像を絶するものがあったと思います。こういった中で、感染拡大が止まらない中、これからの感染症対策等についてどのように考えているのかお知らせください。

◎副議長（今大介） 教育委員会理事兼指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（相馬保） 感染拡大が止まらない中、学校においてこれからどういう対策を取っていくのかということでございますが、まずは、やはり基本的な感染対策を徹底することが最も効果的な方法の一つと考えております。また、ICTの活用も有効です。特に、1人1台端末の利活用につきましては、コロナ禍における学びの保障、そしてGIGAスクール構想の本来の目的である児童生徒の個別最適化された学びの実現

のためにも、大切な取組であると考えております。教育委員会といたしましては、授業への活用に加え、端末の自宅への持ち帰りや学習支援ソフトA Iドリルの活用を試験的に行うなど、活用推進を図っているところでございます。

以上でございます。

◎副議長（今大介） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 学校ではまだまだ感染が拡大している状況ですので、子供たちのために学校でできることを一つでもやっていただければと思いますけれども、前回もちょっと質問したんですけれども、政府が令和3年の9月に、学校に抗原検査簡易キットを配布するということがありました。でもこれは現場が混乱しただけで、残念ながら広がることはできませんでした。あのとき、学校での検査方法を見直して定期的な検査をもし行っていたら、今回の感染拡大は違ったものになっていたのかもしれませんが。ちょっと残念に思うところもありますけれども、これから春休み等いろいろありますので、学校等で感染防止に徹底することをよろしくお願ひしたいと思います。

次は、地域おこし協力隊の状況についてですが、3人が今年の7月まで、1人が9月までということでおおむね頑張っていたみたいですが、黒石市に来ていただいた後の生活の悩みや、起業に対するサポートなどをどのように対処してきたのかお聞きいたします。

◎副議長（今大介） 農業委員会事務局長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 協力隊員へのサポートであります。隊員が日々の生活において相談しやすい体制となるように心がけてきました。まず、生活に関する支援では、着任時から希望する場所で生活ができるよう隊員と共に住居を選定したほか、活動終了後の住まい確保についても引き続き取り組んでおります。

次に、悩みに関する相談であります。就農に関する相談が多く、隊員が必要とする農業情報の提供や研修の申込み、さらに、本人の希望に応じ新たな研修先との面談確保に取り組ましました。

起業に関する支援では、活動終了後スムーズに就農できるよう、早い時期から地域おこし協力隊起業支援補助金、農業次世代人材投資資金の支援制度を説明するなど、隊員の定住に対する希望に添えるようにきめ細かくサポートしております。

以上です。

◎副議長（今大介） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 今後も農業に関わる新規の協力隊を募集するのか、その辺の計画についてお知らせください。

◎副議長（今大介） 農業委員会事務局長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 農業分野における地域おこし協力隊につきましては、令和2年度から再度募集しており、これまで関東圏を中心に5人の方から問合せがありました。いずれも応募には至りませんでした。

今後も、地域おこし協力隊の制度を活用し、地域農業の新たな担い手確保と地域活性化につなげるため、引き続き協力隊を募集してまいります。

以上です。

◎副議長（今大介） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 農家の高齢化、人口減少対策にとって、協力隊は意味のある事業だと思います。ただ、協力隊のそういう悩みとかをきちんとフォローして、事業をブラッシュアップして、より効果的な実施をこれからもしていただければと思います。

最後、旧黒石小学校の活用についての質問です。

アートに関する場所ということで、具体的な計画はまだのようですけれども、教育委員会で検討に入るということで、非常に夢のある話で、美術館・博物館のない黒石市ですけれども、その辺を補完できるものになるといいなということで、非常に期待をしております。

それで一つ、これとは直接関係ないんですけれども、グラウンドのことについて。旧黒石小学校のグラウンドは、今までは売却ということで利用のことを考えていなかったの貸してただけませんでしたけれども、現在、西部地区には御幸公園がありますが、もう御幸公園は駐車場化しており、そういったグラウンド的な機能はなくなってきておりますので、将来的に旧黒石小学校を活用するのであれば、旧黒石小学校のグラウンドは早くから活用させていただきたいと思うんですけれども、その辺いかがでしょうか。

◎副議長（今大介） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） グラウンドの活用についてですが、旧黒石小学校グラウンドは、現時点で活用方法は未定でございます。校舎を子ども美術館として利活用していく方向性であることを踏まえ、来年度以降、市民から広く意見を聞き、多角的な目線で活用を検討していくこととしております。

以上です。

◎副議長（今大介） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 先ほど、お話しした御幸公園のこともありますので、できれば早めに利活用できるよう検討していただきたいと思います。

あと最後に提言ですけれども、これも直接質問と関係ない部分もあるんですけれども、今、黒石市は、令和8年4月からですか、ごみ処理施設の広域の統合に向かっているんですけれども、そういった中で町なかの廃校などを利用してリサイクルセンターなどを利用するというの

が、結構全国で広がっております。統合に向けて、粗大ごみの減量、まだ使えるもののリユースの推進がこれからますます必要になってくるかと思えます。

この間NHKで見たんですけれども、要らないものを預ける人と使いたい人をつなげる、そういう番組がありました。現在、東京のほとんどには公営のリサイクルセンターがあります。また、市町村とリユース業者との連携によるリユースモデルの事業もあります。町なかの廃校の利用の方法の一つとして、こういった役割もあればよいのではないかと考えますので検討をお願いしたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

◎副議長（今大介） 以上で、7番大溝雅昭議員の一般質問を終わります。

◎副議長（今大介） 換気のため、暫時休憩いたします。

午前10時49分 休 憩

午前11時05分 開 議

◎副議長（今大介） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、12番北山一衛議員の登壇を求めます。12番北山一衛議員。

登 壇

◎12番（北山一衛） 皆さん、こんにちは。新自民・公明クラブの北山一衛です。新型コロナウイルスの蔓延、ロシアによるウクライナへの侵攻など、近年に例を見ない混沌とした時代にあります。早期の収束、回復、改善を願うものであります。

それでは、早速ではございますが、通告に従い質問に入ります。

最初は、黒石 I C ロジスティクスクロッシングについてであります。

この事業は黒石インターチェンジを活用し物流の最適化を図り、地域産業の活性化を目的としたものであり、2017年度から整備が進められ、2021年度までの5年間に第1期計画として進められてきました。私は令和元年第3回定例会において、この事業についての質問を行い、理事者側の答弁として、「市では道路、上下水道整備を進めている。進出企業は5社で、紅屋商事株式会社が既に着工しており、ほか4社は来年度から着工予定である。今後は、物流拠点として発展していけるように市に合った開発方法を検討し、国や県と打合せを重ねていきたい」との答弁がありました。現在、第1期計画の期限が迫っており、これまでの整備状況と今後の計画等についてお尋ねいたします。

1点目は、現時点での市及び進出企業の整備状況についてお知らせください。また、今後の計画についてもお知らせください。

2点目は、黒石ICロジスティクスクロッシングでの進出企業による雇用等、経済効果についてお知らせください。

次に、温泉供給事業特別会計についてであります。

この会計の中で、板留温泉から落合地区等に分湯する事業は、会計の厳しい運営状況、既存温泉設備の老朽化などの問題点から、有識者によって検討会が設けられ事業化されました。私は令和2年第1回定例会でこの事業について質問を行い、理事者側の答弁として、「令和2年度までの分湯工事完了後、令和3年4月には分湯できる予定。毎戸の契約について、意向を確認した上で今後の運営方針を踏まえて検討する。現施設については、分湯後一定期間使用できる状態を維持し、分湯の状況が良好であると判断された後、今後について対応していきたい」との答弁内容でありました。

この事業は順調に推移しているとお聞きいたします。そこでお尋ねします。

1点目は、分湯後の毎戸の契約状況、分湯後の状況、会計の状況・見通しをお知らせください。

2点目は、既存施設（平山源泉1・2ポンプ場、落合地区の配湯所、計3か所）の現状と、今後の対応についてお知らせください。

次に、融雪溝の整備についてであります。

今年も豪雪に見舞われ、除雪対策費の追加補正がなされました。融・流雪溝を整備している路線と、していない路線では、道路の幅員の確保、除排雪費用の軽減や沿線住民が容易に排雪できるなどのメリットがあり、雪国にとって必要不可欠な施設であります。当市は、流雪溝の整備に当たり、国内においても先進的なモデル地区として整備された経緯があります。現在は流雪溝に代わり融雪溝の整備が進められております。この質問は、平成27年第1回定例会で質問を行った経緯があり、予算を見る限り年々減少しているように思われます。

そこでお尋ねいたします。本市の融雪溝の整備状況と今後の整備計画をお知らせください。

次に、市の再生可能エネルギーの可能性についてであります。

脱炭素が叫ばれる中、各地での再生可能エネルギーの導入が進められております。以前、国は再生可能エネルギー等導入支援基金事業を行い、当市においてはおよそ2億円の配分で、黒石市避難施設再生可能エネルギー等導入事業を行った経緯があります。民間等では、東北電力株式会社の水力発電所、水道企業団では、小水力発電が行われております。計画では、当市にある砂防ダムを利用し小水力発電の計画がありましたが実現に至っておりません。ほかに、民間による山岳地帯での風力発電の計画もあったようにお聞きいたします。また、農業用水路を利用した小水力発電の計画もあります。しかしながら、計画から実行へ移行するに当たり、様々な課題・問題点があると思われます。市として助言、連携、後押し等が必要であると思

ます。このような観点から、本市での再生可能エネルギーの可能性についての所見をお尋ねいたします。

以上で、壇上からの質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎副議長（今大介） 理事者の答弁を求めます。市長。

◎市長（高橋憲） 新自民・公明クラブ北山一衛議員にお答えいたします。私からは、黒石ＩＣロジスティクスクロッシングについての市及び進出企業の整備状況と今後の計画について答弁させていただきます。

進出企業の整備状況についてですけれども、現在までで紅屋商事株式会社、有限会社たんぼぼ運送、日興運輸株式会社の３社が操業を開始しております。また、紅屋商事株式会社につきましては、現在操業中の物流センターに加え、食品加工場の併設と本社研修施設の建設をする予定になっております。南貨物自動車株式会社、紅屋ホールディングス株式会社につきましては、土地の造成中であり令和４年度に施設の設計を行う予定と伺っております。また、新たに１社が開発行為の手続を進めておりまして、全体で６社の進出となりました。

次に、市の取組状況についてですけれども、令和３年度に第１期計画が終了することから、令和３年７月に第２期計画に向けた課題の洗い出しや開発手法等の検討のため、青森県浅瀬石川土地改良区及び市内の関連する課による検討会を設置いたしました。また、今年度、ロジスティクスクロッシングのエリアや開発方法の参考となるような事例等を含んだ調査を実施しております。

今後は、調査した内容や進出する企業に対応した道路などのインフラ整備等を考慮しながら、第２期計画の策定を検討してまいります。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

◎副議長（今大介） 企画財政部長。

◎企画財政部長（須藤勝美） 私からは、市の再生可能エネルギーの可能性についてお答えいたします。

当市では、人口減少時代における地域の自立及び二酸化炭素の削減に向け、平成２９年度から令和元年度まで中野川砂防堰堤を利用した小水力発電による事業の可能性調査を行い、令和元年度から令和３年度にかけて事業者を公募しました。公募を実施した３年間において、それぞれ民間事業者からの応募はありましたが、採算が合わず事業性を見込めないとの判断から、最終的に全ての事業者が辞退しております。

中野川砂防堰堤では事業化に至りませんでした。エネルギー開発事業者から沖浦地区における地熱発電や青荷川における小水力発電に関する問合せが寄せられてきていることから、本

市への再生可能エネルギー導入の可能性は期待できるものと感じております。

以上です。

◎副議長（今大介） 商工観光部長。

◎商工観光部長（真土亨） 私からは、黒石 I C ロジスティクスクロッシングについての経済効果についてお答えいたします。

ロジスティクスクロッシングエリアに企業が進出したことにより、市としましては法人市民税が増額になったことが挙げられます。また、固定資産税については、農地が宅地化され建築物が建設されたことに伴い、企業立地促進条例に基づいた減免期間の終了後には、大幅に増収となる予定です。

雇用面では、各企業の黒石市内事業所の従業員数が、紅屋商事株式会社が151人、有限会社たんぼぼ運送が35人、日興運輸株式会社が34人となっており、市内からも採用されております。いずれの会社も引き続き雇用募集を定期的に行うと伺っております。

また、ロジスティクスクロッシングエリアに進出した企業の関連企業が当市へ進出するなど、波及効果も現れております。

以上です。

◎副議長（今大介） 建設部長。

◎建設部長（鳴海真一） 私からは、温泉供給事業特別会計についてと融雪溝の整備について答弁させていただきます。

まず、温泉供給事業特別会計についてです。

毎戸の契約状況については、分湯前の受給が家庭用68件、営業用5件、共同浴場1件の計74件であったのに対し、今後使用する見込みのない湯量について廃止の協力をお願いした結果、家庭用13件、営業用1件の計14件の廃止申請がありましたので、現在は家庭用55件、営業用4件、共同浴場1件の計60件となっております。

次に、分湯後の状況についてですが、板留温泉から分湯される湯量は毎分165リットルを上限に、板留の森のあかりに隣接している7万リットルの貯湯槽に一旦蓄えてから供給しており、最大湯量毎分約250リットルを受給者に供給できると見込んでおります。この湯量は、現在使用している世帯の湯量を確保できている状況で、湯量に関しては問題なく供給できていると考えております。

一方で、配湯方式がこれまでの循環方式からかけ流し方式となったことに伴い、供給区域の一部において温度低下が確認されたことから、適切な温度を保つため管末で排湯量を調整するなど、状態を常に監視し良好な供給が維持されるよう努めております。

また、使用を休止している湯量が約115リットルあり、それらが全て使用された場合は、湯

量の確保が厳しくなる状況にあるため、現在新規や追加の受給申請は見合わせることにし、慎重に対応していきたいと考えております。

次に、会計の状況と見通しについてですが、令和3年度の収入の状況は、約1400万円と見込まれ、コロナ禍の影響で令和元年度よりも約200万円の減少となった令和2年度に比べ、契約件数の減少はあったものの、使用湯量は同程度となる見込みです。今後、コロナ禍が落ち着いてくれば、観光客が戻り、旅館等の使用湯量が増加し、温泉使用料も増加するものと見込んでおりますが、コロナ禍の影響が続けば、このまま推移していくものと思われれます。

令和3年度の支出については、分湯開始後に必要となった施設設備の工事費が増額となり、また、先ほど述べましたとおり収入が減ったことから、一般会計の繰出金は約750万円となる見込みです。今後は、施設設備の工事を令和5年度まで予定しておりますので、安定した支出状況になるまでには、いましばらく期間が必要であると考えております。

次に、旧施設の現状と今後についてです。

板留温泉からの分湯前の既存施設は、源泉をくみ上げていた平山源泉1ポンプ所と平山源泉2ポンプ所の2か所と、温泉を使用者へ供給する落合配湯所の計3か所であり、令和3年4月5日からの分湯開始後は、分湯による供給が安定するまでの間、常時使用できる状態で施設を維持し、令和3年5月14日にポンプなどの動力装置及び電気設備を停止しております。

現在、供給が安定していることから停止状態を継続しておりますが、落合配湯所につきましては、温度管理を行うため施設内の管末を排湯場所として使用しております。

今後の対応につきましては、まず、平山源泉1ポンプ所と平山源泉2ポンプ所の対応を検討してまいります。また、落合配湯所につきましても、温度管理を行う設備工事の完了後、対応を検討してまいります。

続きまして、融雪溝の整備についてです。

融雪溝及び流雪溝の整備状況につきましては、流雪溝が11.9キロメートル、融雪溝が17.6キロメートルとなっております。これに加え、工事に着手しておりました旧中郷小学校前の路線約512メートルの融雪溝が今年度に完成し、管理体制を整えば令和4年度から利用可能となっております。

今後の整備計画につきましては、今年度に完成した路線の北側に接続する路線について、令和4年度から融雪溝の整備に係る調査設計に着手する予定であります。当該路線は主要地方道大鰐浪岡線と市道ぐみの木野際線を連結する市道であり、生活に密着した路線であります。幅員が狭いため冬期間の通勤・通学時において、路肩に堆積された雪で安全な通行が確保できない状況にあります。したがって、融雪溝の整備を進めることで、車道幅員と歩道空間が確保され、安全で快適な通行が可能になるものと考えております。

融雪溝の整備におきましては、これまでと同様に財源の確保はもちろんですが、勾配確保など地形的な条件に支障はないか、さらには地元の協力が整っているかなど、総合的に判断しながら整備を進めていきたいと考えております。

以上です。

◎副議長（今大介） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎副議長（今大介） 再質問を許します。12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） 御答弁ありがとうございました。通告に従って、再質問を行わせていただきます。

まず最初に、黒石ICロジスティクスクロッシングに関しまして、順調に計画どおり推移しているとのことでありまして、よかったなあと思っているところでございます。これから第2期計画に向けて、いろいろ調査等を進めていくということでございますが、この中で気になっているのが、一番最初の構想にありましたインターチェンジとの接続に関しましての見解をお知らせ願いたいと思います。

◎副議長（今大介） 商工観光部長。

◎商工観光部長（真土亨） 今年度の調査におきまして、取り込み可能な物流とか流入の車両数とかを調査しております。今後は、第2期計画の中でロジスティクスクロッシングエリアとの取付位置や取付効果などを考慮しながら、引き続き検討していきたいと考えております。

◎副議長（今大介） 12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） この第2期計画で、もう少しお知らせ願いたいんですけども、まだ調査の段階であると思うんですけども、この第2期計画で大体の工事は終わるのか、それともその後、第3期計画等があるのかをお知らせ願いたいと思います。

◎副議長（今大介） 商工観光部長。

◎商工観光部長（真土亨） 今現在、全体で26ヘクタールが計画でございます。今、開発面積でいくと、道路とか除いて10.6ヘクタールくらい開発しています。今後開発する部分につきましては、前にも答弁しておりますけれども、第1種農地であるということと、国の土地改良事業が入ってきていますので、そこをどのようにクリアしていくかを今調査中でございますので、その範囲の中でどこまで広げていけるかも併せて検討していきたいと思っております。

◎副議長（今大介） 12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） 今、計画段階でありますので、この辺でこの質問は終わらせていただきたいと思います。

次に、この2点目として、経済効果がこれだけあるということをお伺いしました。よかった

など感じております。ただ、固定資産税に関しての内容につきまして、もう少し詳しくお聞かせ願いたいと思います。

◎副議長（今大介） 商工観光部長。

◎商工観光部長（真土亨） 固定資産税につきましては、企業立地促進条例に基づいて減免措置が3年ありますので、その後につきましては課税されていくということです。広大な農地が宅地化されたこと、建物自体もかなり大規模な建物が建っていますので、固定資産税がかなり増収になるということでございます。

◎副議長（今大介） 12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） 中身は聞きませんが、経済効果がありますと少しは黒石の市民平均所得が上がるわけでございますので、ようやく黒石市も県内10市の中で最低ラインから脱却できるのかなと期待しておりますので、今後ともどんどんと経済対策に対しまして頑張ってくださいと思います。

次に、温泉供給事業特別会計に移ります。

この事業も順調に進んでいるということで、ようやく順調に来たかなと思っております。前回の質問に比べて、毎戸契約が減ってですね、収入も減っているということをお聞きしまして、一般会計への返済が1000万円から750万円ということで、先延ばしになるかなということでもありますけれども、この事業に関しましても、今まで本当に温泉事業が苦しかったわけですので、回復に向けてこれ以上にもっと頑張ってくださいと思います。

次に移ります。既存施設に関しましては、やはり話をお聞きしますと、施設がもう古くだめだということと、これを早く売却してほしいということをお願いしておりましたが、維持費にすごくお金がかかるということもお聞きしておりますので、なかなか引受先が難しいのかなと思っております。その辺に関しまして、今後についてお考えがあればお知らせ願いたいと思います。

◎副議長（今大介） 建設部長。

◎建設部長（鳴海真一） 既存施設につきましては、今、北山議員がおっしゃいましたとおり、元々が更新だったり維持管理の費用がかかるので、今の分湯に代えたということもありますので、再利用ということも検討はしなければならないんですけれども、かなり厳しい状況ですので、別の選択肢、廃止という選択肢も含めて、今後検討していきたいと考えております。

以上です。

◎副議長（今大介） 12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） 分かりました。ありがとうございました。次に移ります。

融雪溝の整備についてでございますけれども、前回質問したときに雪道計画というのがある

のに、これが公表になっていないということでありましたので、この雪道計画についての内容をお知らせ願いたいと思います。

◎副議長（今大介） 建設部長。

◎建設部長（鳴海真一） 雪道計画というのは、そもそも融雪溝の工事を実施するに当たって必要でつくっている計画なんですけれども、一般的に公表するようなものではなくてですね、国に申請する段階に必要なということで策定された計画ですので、一般に公表していないというのが現状であります。雪道計画自体は、学校周辺——今なくなった旧中郷小学校とか学校周辺の通学路を中心とした整備を進めていくということで策定しております。

以上です。

◎副議長（今大介） 12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） 前回質問したときに、その計画にのっかって整備を進めていくということでありましたけれども、その後の状況はどうなっているんでしょうか、お知らせ願いたいと思います。

◎副議長（今大介） 建設部長。

◎建設部長（鳴海真一） 先ほど答弁しましたとおり、今年度で終了しました旧中郷小学校前の路線の次が北側の路線——主要地方道大鰐浪岡線からぐみの木野際線、ぐみの木の市道までの連絡の路線なんですけれども、それも雪道計画に載っております路線ですので、結局通学路として整備しておりますので雪道計画に沿って整備を進めております。

以上です。

◎副議長（今大介） 12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） 今、ぐみの木線を次に行っていくという答弁がありましたけれども、その後はあるんでしょうか、お聞きしたいと思います。

◎副議長（今大介） 建設部長。

◎建設部長（鳴海真一） 予定としましては、ぐみの木の信号付の丁字路の交差点、黒石小学校に向かう路線があるんですけれども、そこが一応予定としては上がっております。

以上です。

◎副議長（今大介） 12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） 予算に関しましてもちょっと触れましたけれども、この融雪溝に当たりまして、国からの予算の配分等が計画どおりに行われているのか、その辺の状況をお知らせ願いたいと思います。

◎副議長（今大介） 建設部長。

◎建設部長（鳴海真一） 予算につきましては、交付金という形で国から頂いているんですけれ

ども、融雪溝だけに使える予算ということではなくてですね、パッケージと我々は呼んでいるんですけれども、側溝整備だったり舗装補修と一緒に来た形で来ている交付金ですので、場合によってはほかに引張られる場合もありますので、定額で配分されているということではありません。

以上です。

◎副議長（今大介） 12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） この質問はこの辺で終わらせていただきたいと思いますが、整備を計画しても、なかなか難しい点、特に水利権等ございますので、計画から実施まで長い時間を要すると思いますので、先々取って早目に計画を立てて実行に移してもらいたいと思っておりますので、これからの御尽力を期待しております。

次に移ります。再生可能エネルギーにつきまして、この問題は黒石市はですね、結構資源を抱えて——いろいろな水力関係、そして風力関係、地熱関係との資源はありますけれども、実現に向けては採算性を考えればなかなか難しいのかなということが考えられます。答弁にもございました。ですので、これからいろいろな計画があると思いますけれども、先ほども2つほどの計画の話がございました。市としてですね、この計画についてどのような後押しができるのか、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

◎副議長（今大介） 企画財政部長。

◎企画財政部長（須藤勝美） 計画というのは、どの部分でしょうか。

（「中野川」と呼ぶ者あり）

◎企画財政部長（須藤勝美） 一応先ほどもお話ししましたが、これは国の補助金を受けて調査し実施したものであります。基本3年間公募するというものではありませんが、3年間手上げはあったものの、結局、最終的な事業計画の提出がなかったということで、一応3年間という縛りでこれ自体は公募が終了ということにはなりますが、ただ市としては、せっかく調査したものですので、今後、例えばその事業者さんから問合せが来た場合は対応していきたいと考えております。

以上です。

◎副議長（今大介） 12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） 先ほどの砂防ダムのほうは頓挫しているということはお聞きしました。沖浦の地熱等の話、あと小水力の話、答弁にあったその2つの中身をちょっとお知らせ願いたいと思います。

◎副議長（今大介） 企画財政部長。

◎企画財政部長（須藤勝美） 小水力に関しましては、一応青荷川のほうで興味を示している業

者さんがいらっしゃいます。ただ、今の段階では調査を行うということ聞いておりますが、実際どこまでかということについては聞いておりません。

地熱に関しても、平成29年、30年の辺りに現地調査等は実際行われております。1社に関しては、今後、令和4年度以降ですけれども、ボーリング調査を実施するというような話は伺っております。

以上です。

◎副議長（今大介） 12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） 今後とも市としてですね、間口を開放して、いろいろな再生エネルギー関係の取組に進んでいってほしいと思います。これはですね、持続可能な社会づくり、SDGsにもつながってくる取組でもございますので、市といたしましても、ぜひとも実現に向けて努力していただきたいと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

以上で、私からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

◎副議長（今大介） 以上で、12番北山一衛議員の一般質問を終わります。

◎副議長（今大介） 昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時37分 休 憩

午後1時01分 開 議

◎議長（佐々木隆） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、13番中田博文議員の登壇を求めます。13番中田博文議員。

登 壇

◎13番（中田博文） 令和4年第1回定例会に当たり一般質問をさせていただきます、新自民・公明クラブの中田博文でございます。

今まさに世界はロシアのウクライナ侵略戦争の報道にくぎづけであり、第三次世界大戦や核戦争という言葉も出てきている昨今、早く終息してほしいと強く望むものです。

また、新型コロナもしかし。収束を見ることなくもう3年目に入り、病院に入院中の方々、家族の方々、面会もできず高齢者の方は危篤状態になってようやく面会ができるが、間もなく亡くなっているという現状。また、介護施設に入所している方も、元気なうちは家族と会うこともできず、最後は静かに亡くなっている話を聞いたり、独りで家にいる高齢者は、家族から友達と会ったり食事に行ってもいけないと言われ、独りぼっちでテレビと会話をしているよという方。このような話を聞くとき、一日でも早い収束を願うものであります。

先般の一般質問で、黒石病院ではオンラインで面会ができる準備をしている報告を受け、よ

かったなと喜んでいるものであります。

それでは通告に従い、1番目は、令和4年度一般会計予算についてであります。予算案は前年度比4億8800万円、3.1%の増、161億5100万円。今年もまた、10市中最下位なのかと考えてしまいます。

財政の話になると、市民の中には今さら図書館が何になるのとか、まちの整備今頃とか、もう衰退してしまっているのに手遅れ、若い方は図書をネットで借りたり見られるから図書館は不必要と言う方もいるのは確かです。これからさらに人口減少が進むのに借金が増えるだけと言う方。反対に、10市の中で図書館がないのは当市だけ、やっとここに来て図書館が出来ると喜んでいる方。100%補助ならいいけどと言う方。市民の間では賛否両論が渦巻いているのは確かであります。私は50年来待ちに待った図書館が、市民にこよなく愛される施設になってほしいと願うものであります。

それでは、令和4年度の市の主要施策の新規重点事業を見ると、13項目ありますが、予備的に進めてきているものが多く、予算措置をし、本格的に実施する、ゆえに真新しい事業だとは感じないのであります。市長は、令和4年度の新規重点事業、施策についてどのように考えておられるかであります。目玉はあるのか、13項目の中で強い気持ちを持っているものがあればお答えいただきたいと存じます。

小さな2つ目は、当市の財政状況は全国で下位に位置していると思います。財政破綻は回避したものの決して豊かではありません。市民の中には、近年数多くの公共施設が建設されていることに不安を抱いている方がおります。それらのことから、市は昔の轍を踏まないという観点から、実質公債費比率18%を超えないことを念頭に事業を進めるとのことです。それでは、黒石小学校25億円、完成。旧大黒デパート解体の7億円、終了。図書館建設8億円、完成間近。この時点での公債費の推移と起債残高はどのようになるのか、また、市民サービス施設が16億円、完成した後の推移もお願いいたします。

2番目は、家庭ごみの有料化についてであります。

市民の負担軽減について、今回で3回目、私は今までも納得いかないもの、特に温泉供給事業は10年以上、成人式の会場問題、ふるさと納税返礼品問題、公民館の運営問題、結果が出るまで質問をしてまいりました。中には、夏祭りのやぐら設置とか実現しなかったものもあります。

さて、家庭ごみの有料化。ごみ袋の価格は平川市の2倍、有料化をしていない自治体の10倍、令和2年まで13年間で5億4000万円の差益。この内容を聞いて、総務部長、市長は何も感じませんか。ごみ袋を購入したことはありますか。ごみ袋を購入している市民の大半は高いと思っている方が多いのであります。私は有料化を否定しているのではなく、有料化を提案した一人

として、過去は過去です。現在、コロナ禍で原油高、物価は高騰、さらにロシアのウクライナ侵略戦争により、今後は電気代を含み、いろいろなものが高騰すると予測されます。このようなことを推察するに、市は、市民に何をしてあげられるか考えなければならないと思います。当市はそれだけでなく財政再建のため、市民の方々にはいろいろな面で我慢に我慢をしてもらってきているわけですので、ごみ袋もしかりだと思っております。今までのやり取りでは、ごみ袋の価格について検証も検討もしない。なぜしないのか、理不尽としか感じられません。

そこでお尋ねいたします。前回の質問で積算根拠を尋ねたところ、処理費用45リットル1袋分は297円、そのうちの2割が59円で60円になったと説明。そのやり取りを見た市民から、2割は役所が自分の都合上の割合を出したのであり、市民は聞かされていない。1割なら30円ではないでしょうかと問合せがありました。この件に関してどのような所見があるかお尋ねいたします。

また先般、市役所のOBの方とお話しをする機会があり、ごみ袋を話題にしたら、平成10年代後半、当市は何も手だてを講じなければ、財政破綻は免れない状況だったとのこと。歳出を抑えるため、スポカルイン、伝承工芸館、市民文化会館のうち1つをやめなければならなかった。また、ごみ有料化を実施するのに、ごみ袋の価格が青森県で一番高い価格となった。市民には申し訳なく思ったが、分別の徹底等、排出の抑制は図られたと思う。しかし、県内で一番高いごみ袋なので、財政が好転すれば価格については将来見直しがされると思ったと言っておりました。また、議員とか特別職の方々の報酬カット撤廃より先に、市民のことを考えてあげなければならなかったのではと苦言を呈しておりました。

政治は市民に思いやりの心を持ち、優しいものでなければならないと思います。市民の中には、給料は上がらない、年金は下がる、物価は高騰し続けて厳しい生活を強いられている人があります。青森県で一番高いごみ袋の価格をやめ、他の自治体並みに検討していただきたいと思います。現状のままという考えは矛盾があり、大義はないと思いますがいかがでしょうか。

大きな3つ目は、ふるさと納税についてであります。

ふるさと納税については取組が数年遅れましたが、担当職員の努力と工夫によって年々寄附額が増えていることが私にとってはうれしい限りです。なぜなら、10市の中でも財源が乏しく予算規模も下位です。よって、ふるさと納税の寄附の額が特に気になります。

(「議事進行について」と呼ぶ者あり)

◎議長(佐々木隆) 15番村上啓二議員。

◎15番(村上啓二) ただいまの質問の中でですね、ごみ袋の件について、行政側に大義がないと、こういう発言でありました。それは行政に対して失礼であり、いわゆる陳謝、削除、そういうものを求めたいと思います。

(「別にそう失礼なことを言っていないと思います」と呼ぶ者あり)

(「暫時休憩」と呼ぶ者あり)

(「議長、進行をお願いします」と呼ぶ者あり)

◎議長(佐々木隆) 議事を進行いたします。13番中田博文議員。

◎13番(中田博文) ふるさと納税については取組が数年遅れましたが、担当職員の努力と工夫によって年々寄附額が増えていることが私にとってはうれしい限りです。なぜなら、10市の中でも財源が乏しく予算規模も下位です。よって、ふるさと納税の寄附の額が特に気になります。返礼品の導入がないときは70万円とか100万円。導入後は数百万円、数千万円。近年は1億円を超え、経費2分の1以下、2分の1以上が手元に残り、多項目の事業に使われていること、私は魔法の玉手箱だと思っており、他力本願ではありますが、地方交付税の依存が特に強い当市にとっては、小さなドル箱であり、もっと大きなドル箱にならないかであります。私は毎年期待を大きくしているのであります。よって、令和3年度の見込みはどのようになるのか、また、近年の寄附額の報告もお願いいたします。

最後の質問は、市の消防団の定数と待遇についてであります。

当市は、昭和の時代からこの議場で幾度となく、団員の報酬が近隣市町村に比較するとすこぶる低い。よって、士気を高めていただくため、他の自治体の報酬同等にさせていただきたいと進言があるものの、何ら変わることなく今日に至っているのであります。ようやく令和4年度から、団長は年額5万1700円から8万2500円、団員は1万3200円から3万6500円に引き上げられるということです。さらには、出動の報酬は1年9000円から1日8000円、あまりにも差があり、びっくりです。数十年も対応できなかった消防団員の待遇問題、財源は地方交付税で措置されるとのこと。

そこでお尋ねいたします。報酬は、全額が交付税なのか、近隣市町村と同額なのか。出動報酬の1日8000円についてもお願いします。この件も、他の市町村との比較をお願いします。また、国は各自治体の団員の確保のため、交付税をもって消防団の待遇改善、士気を高めるための支援はありがたいことです。しかし、当面の一時的なものなのか心配です。どのようになるのでしょうか。

次に、消防団員の定数についてであります。

現在は定数860人、改正案は740人と、120人の減です。極端に減らして大丈夫なのか、問題はないのか、見解を問うものであります。

以上で、壇上からの一般質問を終わらせていただきます。御清聴誠にありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（佐々木隆） 理事者の答弁を求めます。市長。

◎市長（高樋憲） 新自民・公明クラブの中田博文議員にお答えいたします。私からは、令和4年度一般会計予算についての新規重点事業について答弁させていただきます。

令和4年度の新規重点事業は、「世界で活躍できる人材の育成」、「支え合える地域社会の構築」、「自立した経済力の確立」の3つのテーマに重点を置き、取り組むことといたしました。

まず、1つ目の「世界で活躍できる人材の育成」では、子育て世代への多角的な支援や市立図書館開館による利活用の促進に加え、子供たちの英語力向上を図ることにより、国際感覚を養う環境づくりに努めてまいります。

2つ目の「支え合える地域社会の構築」では、地域包括ケアシステムやコミュニティービジネスを核とした持続可能な自主自立の地域づくりを展開するとともに、空き校舎の利活用やデジタル技術を活用した市民の利便性向上を図ります。

3つ目の「自立した経済力の確立」では、新型コロナウイルス感染症の収束を見据えた産業振興のため、黒石ブランドの確立により地場製品の販売力を強化するとともに、事業者が新たなことに挑戦しやすい環境づくりを展開してまいります。

13項目ある新規重点事業の中で、市民の長年の悲願でありました令和4年度オープンを目指す市立図書館の第一歩として捉え取り組む図書館利活用促進事業は、新年度の目玉事業として考えております。

子供たちを中心とした市民の皆様に広く図書館を利活用していただきながら、学びあう図書館、憩いとにぎわいの図書館、市民の力を育む図書館として、多くの方々に愛される図書館づくりを進めてまいります。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 私からは、家庭ごみの有料化とふるさと納税について、そして市消防団について答弁させていただきます。

まず、家庭ごみの有料化についてでございます。

処理費用、負担割合の根拠についてですが、家庭ごみ有料化実施検討に当たり、黒石市廃棄物減量等推進審議会の答申を基に、市内10地区で意見交換会を行いました。有料化につきましては、全てのごみ処理費用について税込のみを財源として賄うことは、減量化に努める市民も、ごみを多く出す市民も排出量に応じた費用負担に差がつかなく、公平性を確保できないことから、有料化により排出量に応じた負担を求めることで、ごみ減量化やリサイクル推進が期待できることを説明させていただきました。また、ごみ排出抑制効果が高く、持続が期待できる方

法として、ごみ処理費用の2割負担による価格設定での実施を提案させていただき、御理解を得て市民の皆様にご負担をお願いするに至ったものでございます。

価格の設定については、有料化検討時、平成17年度を基準年とし算定した市指定ごみ袋45リットル1袋当たりの処理費用は、議員がおっしゃっていましたが297.36円で、その2割負担が59.47円となり、60円としたものでございます。平成30年度の数値での試算は、指定ごみ袋45リットル1袋当たりの処理費用は321.72円で、その2割負担は64.34円となり、当初より上昇しておりますが、市民の皆様の御負担を変えることなく、有料化開始当時の設定を維持してございます。

次に、市指定ごみ袋の価格の見直しについては、前回、また前々回定例会でも答弁しておりますが、令和8年度の津軽地域ごみ処理広域化の動向を踏まえ、検討してまいりたいと思っております。

次に、ふるさと納税についてでございます。

初めに、近年の寄附実績についてですが、過去5年では、平成28年度は寄附件数が91件で寄附金額が630万3000円、平成29年度が101件で803万5000円、平成30年度が2643件で6880万7200円、令和元年度が6579件で1億972万3500円、令和2年度が9226件で1億3757万200円であり、ふるさと納税による寄附は年々増加しております。

次に、令和3年度の見込額についてですが、2月末現在の実績では、寄附件数が1万4023件で寄附金額が1億8103万9505円であり、既に前年度に対して件数が4797件の増、寄附金額が4346万9305円の増となっており、今年度は最終的に1億9000万円前後の寄附があるのではないかと期待しているところであります。

寄附が増えた要因については、新たな返礼品を随時追加することで、当市の魅力ある地場産品等を広くPRできた結果だと考えてございます。今後も魅力ある返戻品を増やすとともに、新たな返礼品の開拓、利便性の向上を含め、リピーターの確保、また、年々需要が増えているふるさと納税ポータルサイトの利用者に対する返礼品の見せ方など、より多くの方々に寄附していただけるよう調査・研究に取り組んでまいります。

次に、市消防団について答弁させていただきます。

消防団は、地域防災力の中核として重要な役割を果たしていますが、近年、全国各地で災害が多発化・激甚化する一方、消防団員数は著しく減少しております。

こうした状況を踏まえ、総務省消防庁では、令和2年12月24日から消防団の充実強化に向け、消防団員の処遇に関する検討会を開催し、消防団の適切な処遇の在り方について議論が行われました。その中で報酬等の改善については、市町村の財政需要を的確に反映するよう令和4年度から地方財政措置について見直すこととなりました。

これに伴い、普通交付税の算定につきましては、令和4年度に限り、同年度の当初予算によることとされましたので、年報酬と出動報酬につきましては、全て普通交付税により措置されるものと認識しております。また、令和5年度以降につきましては、青森県総務部市町村課より前年度の決算額に基づき算出される旨通知されているところでございます。

次に、定数についてでございますが、当市の消防団員の定数は、黒石市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例において860人と定めております。令和4年1月1日時点の消防団員数は、前年同時期と比較して17人減少の721人が在籍しており、充足率は83.8%と平成22年のピーク時823人に比べると12年で約100人減少している状況でございます。

今回提案させていただいております消防団員定数を740人にするに当たっては、これまでも消防団員の確保に向けた対策の検討などを行ってきたところではありますが、昨年10月に常備消防や歴代の団長、現役の本団幹部で組織する黒石市消防団員の処遇等に関する検討会を立ち上げ、消防団の適切な処遇の在り方を中心に議論を続けてきました。その中で、各分団・各消防部の人員等の実態調査を行うなど、地域に見合った定数の検討を行ってきたところでございます。

また、地域防災力の強化を考える上では、消防団と弘前地区消防事務組合や自主防災組織との連携は地域防災力を高める上で極めて重要であります。特に、当地域の弘前地区消防事務組合の消防・防災体制は消防車両や資機材などが充実していることから判断して、消防団員の定数（案）740人は適正と考えてございます。

以上でございます。

◎議長（佐々木隆） 企画財政部長。

◎企画財政部長（須藤勝美） 私からは、1番の令和4年度一般会計予算についての、イの公債費、起債残高の推移についてお答えいたします。

市では、平成30年度から令和元年度にかけて新設黒石小学校建設事業及び新設黒石東小学校増築事業、また、令和2年度から令和4年度にかけて旧大黒デパートの解体及び市立図書館建設事業を実施しているところです。これら一連の事業を開始した平成30年度一般会計の決算では、公債費が約16億7000万円、起債残高が約122億9000万円でありました。そして、令和3年度一般会計における公債費及び起債残高の決算見込みですが、公債費が約15億3100万円、起債残高が約119億3000万円となっております。

令和4年度一般会計予算においては、公債費は約15億円、起債残高は約119億1000万円としており、令和3年度の決算見込みと比較すると、公債費・起債残高共に減少する見込みとなっております。

また、令和4年度から令和5年度にかけて建設予定の市民サービス施設の整備に伴う今後の

推移でございますが、公債費につきましては引き続き減少していく見込みです。起債残高につきましては、市民サービス施設の完成予定である令和5年度は起債の借入額が増えるため、前年度から若干増えるものと見込んでおりますが、令和6年度からは徐々に減少していく見通しとなっております。

今後とも、財政規律の遵守を最優先とした上で計画的に事業を実施し、健全な財政運営に努めてまいります。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎議長（佐々木隆） 再質問を許します。13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 答弁、ありがとうございました。令和4年度の目玉というのは、図書館利活用促進事業ということの今、市長からの答弁がありました。この資料を見ておりますけれども、いろいろな細かいものがなされるということでもあります。もっと簡単に概要的なものをもうちよっと分かるような形で全体的なものを説明していただければいいと思いますけれども、お願いいたします。

◎議長（佐々木隆） 企画財政部長。

◎企画財政部長（須藤勝美） 内容についてでありますけれども、当初予算の資料にもございましておりましたが、概要としては図書館が出来る第一歩として、子供たちを中心に市民の図書館利活用促進を図るということで、それに沿った事業を予定しているところであります。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） るる細かく記載されていますけれども、準備的なものというのはある程度、相手との交渉・話し合いがなされて、議会の議決をもって、ものが実行に移るのかということをちょっとお尋ねいたします。

◎議長（佐々木隆） 企画財政部長。

◎企画財政部長（須藤勝美） 事業の内容については、財政のほうでも聞いてはいますが、その細かい進捗状況等についてはちょっと確認はしておりませんでした。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 数多くの子供とか大人の方々が、魅力あるという対応でいっぱい人が行って利用していただくということが、本来我々の願いということになるので、何とかそこをうまくやっていていただきたいと思います。

職員とかは、多分別枠での採用とかがないまま、現職員のままで対応していくと思いますけ

れども、何かこう見ていると聞いていると専門的な人がなかなかいない。臨時職員は多分向このスポカルのほうの臨時職員とかが来るから下にいる方々はそれで対応できるけれども、この開館にオープンに当たっての思いというものがあればお願いいたします。

◎議長（佐々木隆） 企画財政部長。

◎企画財政部長（須藤勝美） 図書館については、10市の中で当市が最後ということにはなりませんが、市民の悲願でもあったということでもありますので、議員さんがおっしゃったとおり、開館に当たってはたくさんの方に、市民の皆様に利活用していただきたいという思いがあります。それが、人がにぎわう元気なまちにつながっていけばなというふうを考えております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 頑張ってください。あと財政ですけれども、今説明、今後の推移というものを聞いて、一切問題はないということでもあります。公債費についても、ぐんぐんぐんぐん事業は事業としてなされて増えたにしても、相当の割合で減っていくということの期待でよろしいのでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 企画財政部長。

◎企画財政部長（須藤勝美） 財政のほうで今後のシミュレーションはしておりますけれども、議員さんが期待しているように、例えばすぐにガタンと下がっていくということではありませんが、やはり中長期的に見ると徐々に下がっていくとは言えるかと思えます。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 20年前とかに比べるとすこぶる……。

◎議長（佐々木隆） 中田博文議員。雑音が入りますのでマイクをあまり触らないように。

◎13番（中田博文） すみません。失礼いたしました。

20年前辺りに比べると、本当にびっくりするだけ財政が健全化ということが進んでいるということで、ほっとしているところであります。いろいろなものを辛抱してきているわけですので、辛抱は辛抱でしていかなければいけないけれども、これからですね、ある程度のものを緩和させていくということもまた考えていただきたいと思います。1番は以上で終わります。

あとは、家庭ごみについてであります。

私が一番心配するのは、本当に今物価が高騰して、普通の生活できる方、裕福な方は多分ごみ袋に関しては高いとかあんまり感じないまま購入してくれていると思うのであります。男性の方、女性の方と話をするとですね、零細企業とか、個人で商売している人たちからすると、ごみ袋は高い、何とかしてほしいというような話ですね。年金の方々というものは限られた収

入しかないものですから、ごみ袋、今45リットル60円、もしも平川市並みになって30円になると、不燃、可燃の45と30リットル両方買えるということ、市長さんにしゃべっていただきたいということを含めて、そういうものを痛切に感じたので取り上げているということでありませうけれども、このごみ袋の価格について13年、14年たっています。もうそろそろ検討とか、検証とかということをしていただけないかなということで、今まで1回、2回、3回目取り上げているということでもありますので、その点再検討とかすることを考える気持ちはないかどうかお尋ねいたします。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） ごみ袋の件でございますけれども、以前からお話ししていたとおり、令和8年度のごみ処理広域化の際に検討していきたいというふうに思っております。

また、毎年検証ということで、市では先ほどちょっと答弁の中で出てきましたけれども、45リットル1袋当たりの処理費用が幾らになるのかということの検証は——毎年その値段が、処理費用が変わってくるものですから、その辺は出して検討して60円くらいでちょうどいいところだなというふうに見ております。

この有料化の一番の目的といいますか、重大なところになりますけれども、良好な生活環境を次世代に引き継ぎ、環境に対する負荷をできるだけ抑制するために家庭ごみの有料化の導入が必要であるという、こういった審議会の答申が出てございます。ですから、この環境の負荷をできるだけ抑制するという意味では、この有料化というのは大事な処置だなというふうに思っております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 総務部長が説明しているのは重々分かります。私の言いたいのはですね、もう十数年もやってきているわけであって、ごみの分別、それから排出量の抑止というものはもうある程度なされているのではないかという思いと、本当に、ごみ袋を誰に聞いても大半の人が高い、どうして高いのかということで今、部長がしゃべったことを私もまたしゃべっています。でも高いねと言う。先般の市役所のOBの方いわく県内で一番高いと。まず、いい意味での一番というのはうれしいけれども、悪いものに対して、市民から見ると違和感を感じるものが一番というのは誰も嫌であります。よって、私が訴えたいのは一番でなくて真ん中ら辺のものの単価に、価格に変えていただけないかというそういうことを考えていただきたいということで取り上げているわけですので、市長もですね、やはりもうちょっと市民側のサイドに立った考えを持っていただきたいということ、くどいようですけれどもお願いするために今質問で取り上げているということでもありますので、何とかそういうことを検討していただきたい

と思います。何かお願いいたします。

(「議長、議事進行について」と呼ぶ者あり)

◎議長(佐々木隆) 9番今大介議員。

◎9番(今大介) すみません、ちょっと議事進行について述べさせていただきます。

この問題、中田議員が議場で何回もやっているわけですがけれども、行政側としては令和8年度に見直しをするというしっかりとした答えを出しているわけですから、これ以上議論しても私は意味がないと思うので、そうしたこともしっかりと精査すべきではないかと思うんですが、暫時休憩を申請いたします。

(「議事進行」と呼ぶ者あり)

(「休憩」と呼ぶ者あり)

◎議長(佐々木隆) 暫時休憩いたします。

午後1時41分 休 憩

午後2時30分 開 議

◎議長(佐々木隆) 休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほど、今大介議員から中田博文議員のごみ袋の一般質問に対して、同じような質問が繰り返されているのでは、などと指摘がありました。休憩中内容を精査しましたが、一般質問は議員の権利であり、同じ質問をすることは可能でありますので御了承願いたいと思います。

議事を続行いたします。

再質問を許します。13番中田博文議員。

◎13番(中田博文) 一言、一般質問のさなか、止められたということは心外であります。何か自分の頭の中の整理がちょっとつかなくてですね、1点だけ行政側のほうにお願いであります。

できるならば、市民の声を聞くという何か団体の方々でもいいので、もしもできるのであればそういうごみ袋に関しての話合い、意見を聞く場面をつくっていただきたい。これは提言です。

あとお願いはですね、非課税とか本当に生活に困っている人たちに安価なものを支給、配給できないのかということを考えていただきたい。可能であれば実施していただきたいということをお願いいたします。以上で、2番の家庭ごみに関しては終わりたいと思います。

あと3番のふるさと納税であります。

先ほどの答弁だと、令和3年度は1億9000万円くらいになる見通し、見込みということの説明、答弁をいただきました。もしもですよ、できるのであれば、もっともっと増やす企画とか工夫というものが考えられないかどうか、考えがあるかどうかお尋ねいたします。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） もっともっと増やす方策でございますけれども、やはり魅力ある返礼品、みんなが黒石市にこういったものがあるんだという、魅力ある返礼品をこれからもっと事業者を回りまして、探していきたいと考えてございます。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 私は分からないんですけれども、お米でもりんごでもいっぱいやるようなそういうことはできないんでしょうか。りんご1箱とか、2箱とかでなくて、何十箱とかそういうものの、返礼品というものを考えることはできないんですかということです。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 返礼品につきましては、寄附金の30%以内の金額ということで決まっておりますので、議員がおっしゃるいっぱいというのは、例えば1万円寄附すると3000円以内の返礼品ということになります。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） だからですね、りんごいっぱい欲しい方にはその3割、それで一遍に何百万円も寄附する人には何十万もという説明的なものを発信するというをやれないのかなということ提案したいということなんです。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 中田議員、すみません。御質問の趣旨をもう一度お願いします。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） お米でもりんごでも、多分欲しい人はいっぱい欲しい。私はいっぱい何十箱欲しいから、何ぼ何ぼ寄附するという、そういう分かるようなPRをしていただきたい。なので、いっぱい寄附していただくためにそういう考えもありますよということをPRしてほしい。100箱欲しければ、何ぼ何ぼ寄附していただければ、100箱を提供・準備できますよという感じのものをPRしていけばいいんじゃないかということをやっていけばいいんでないですかということです。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 多く欲しければですね、多い口数の寄附をしていただければいいわけですので。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） それをもっともっと大きく広めてPRしていただきたいと、額をいっぱい寄附してもらうことの手段としてやっていただきたいということをお願いしたいということなんです。一応時間ですので、3番のふるさと納税を終わらせていただきます。

最後に、消防団の待遇と定数ということであります。

先ほど説明いただいたら、令和4年度は地方交付税で措置されると。ちょっと聞き漏らしたので5年度以降というのをもう一回また説明お願いできますか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 令和5年度以降ですけれども、令和5年度以降につきましても、地方交付税で——これは前年度ですので、令和4年度の実績に基づいて普通交付税措置されることとなります。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） そうすれば、地方交付税で措置されていくから待遇に関しては大丈夫だという考えでいいということですよ。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） はい、そのとおりでございます。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 安心しました。あと定数なんですけれども、質問の中で120名減ということで、一般的に考えれば、大丈夫なのかなということを誰しもが感じると思うのであります。今までも定数に満たないということで、心配する議員から、大丈夫、どうして補充できないという質問、やり取りが結構あったと思うのであります。悪く解釈すれば、現状に定数を合わせているのかなと、悪く考えるとそういう考えにも立つんですけれども、その点いかがでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 定数につきましては、先ほども答弁させていただきました。平成22年が823人で、現在、令和4年1月では720人ほどということで、この12年ほどで100人ほど減っているんですけれども、特に現状に合わせたということではなく、今、各消防部に対しまして必要な人数はどの程度なのかということの実態調査をさせていただきました。その中で出てきた結果を基にして、740人という案を出させていただいたところでございます。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） そうすれば740人ということで、大丈夫だということでもよろしいわけですか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 大丈夫だということでもございます。また、国の基準からしますと、黒石市のような人口に合わせますと186人なんです。そうすると、もう相当少ない人数になります。ただ、各自治体の人口密度とか、そういうところを考えると、黒石市みたいに集落が飛

んでいるところも考えれば一概にそのとおりというわけにはいきませんが、それに比べると多いほうではないのかなと思っております。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 分かりました。これから、今後将来ということ考えた場合、ある程度の年齢になったり、退職ということで、人が辞めていくということになると、定員というものは必要だということになってくるわけです。若い方々というのは、なかなか消防団には入っていないという機運もありますので、何とかちょっとずつでも補充、増やしていくという手だて、PRというものを行政でやっていただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 若い人たちに興味を持っていただくために、募集のポスターとかも、お笑いタレントとかプロレスラーとかというタレントを起用してのポスター、それから消防団活動のDVD動画を制作しまして、それも各消防部にお配りしたりして、それを見ていただいて、少しでも興味が湧くような方策も考えてございました。

◎議長（佐々木隆） 以上で、13番中田博文議員の一般質問を終わります。

◎議長（佐々木隆） 次に、5番工藤禎子議員の登壇を求めます。5番工藤禎子議員。

登壇

◎5番（工藤禎子） 一般質問の最後となりました日本共産党の工藤禎子でございます。

質問に入る前に、ロシアが2月24日ウクライナへの侵略を開始し、悲惨で痛ましいウクライナの状況が毎日放映されています。原子力発電所を制圧したり、核兵器の先制使用まで示唆して威嚇するロシアの姿勢を被爆国日本として断じて許せません。

我が党はあの侵略戦争に命がけで反対した政党です。「戦争反対」、「ロシアは撤退を」の行動が各地で取り組まれています。日本共産党黒石市委員会代表工藤禎子で、3月2日に在日ロシア連邦大使館に、プーチン宛てに抗議文を送りました。ロシアの即時攻撃停止と全面撤退を国際社会と連携し取り組んでいきたいと思います、この場所からも訴えたいと思います。

それでは、一般質問に入らせていただきます。

質問の第1は、新型コロナウイルス感染症検査キットの配付についてお聞きいたします。

今年に入ってから、新型コロナウイルスの新規感染者は増え続け、オミクロン株に置き換わり、県内では2月で1万1017人と県内最多の月を更新しました。3月は、3月13日で既に2月同時期より上回り、オミクロン株が猛威を振るっています。弘前市が独自で陽性者数を発表しているため、弘前市以外の動きも分かるようになり、これまで比率で弘前市の半分ほどあったものが2月28日からは弘前市と比率が接近し、昨日の3月13日は弘前保健所管内陽性患者数で

弘前市よりも弘前市以外のほうが上回ったのです。黒石市が増えている状況が分かります。そのタイミングで、市は3月12日から4月11日までの1か月、新型コロナウイルス感染症予防対策強化月間を実施すると3月11日に発表しました。

しかし、風邪の症状がある場合、医療機関への受診ですが、本人や家族が無症状や症状が軽いと不安になります。ですから、市民がPCR検査を受けやすい状態をつくり、感染対策を強めるべきです。県が3月31日まで延長したPCR検査等無料化事業や国の交付金を使って行政が事業主体に行っているむつ市、あるいは青森市・五所川原市・十和田市・三沢市・八戸市・平川市などが行っている、企業が検査センターを役所に開設し、低額で検査できるようなやり方など実施しています。黒石市でもPCR検査キットや抗原検査キットの無料配付など考えてはどうでしょうか、お聞きいたします。

質問の第2は、新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金の周知についてお伺いします。

感染対策と同時に、生活支援は欠かせません。濃厚接触者など休業させられた労働者のうち、休業手当の支払いを受けることができなかつた方に対し、労働者の申請により休業支援金・給付金を受け取ることができます。国の事業ですが、制度を知らない労働者も多いことから、いろいろ活用できる制度を、行政として市民に周知する必要があると思いますがどうでしょうか、お伺いいたします。

第3は、黒石市立図書館新築工事についてお尋ねいたします。

アとして、まず、契約額が合わせて4800万円の増額変更となりましたが、建築、機械設備、電気設備それぞれの工事ごとに何がどのように増えたのかお知らせください。

イとして、屋根ヒーターですが、エリアごとに作動、調整できるようにするのか、それとも一括調整にするのかお聞きいたします。

ウの屋根及び外壁の色についてですが、屋根の色はシルバーと説明を受けましたが、なぜシルバーがいいのか、どういうイメージや利点があって決めたのかお聞きいたします。また、外壁の色はどのように考えているのかお知らせ願います。

エは、館内の照明と配色についてお聞きいたします。屋根の大きさから見て、館内への自然光は入らないと思いますが、蛍光灯の明るさはどのようにになっているのか。また、館内の床・壁・書架の色はどうなっているのでしょうか。

オとして、館銘板についてお聞きいたします。館銘板の材質・大きさ・形はどのようなものになるのかお聞きいたします。

質問の第4は、黒石市立図書館運営計画について3点お尋ねいたします。

1点目は、司書を職員比でどのくらいにしようと考えているのでしょうか。

2点目は、図書ボランティアの育成はどのように考えているのか。

3点目は、パブリックコメントでは、経験のある館長や司書の配置を求めることや、図書館利用のための公共交通の充実など意見が寄せられていましたが、どのように考えているのでしょうか。

質問の最後は、第3次黒石市子ども読書活動推進計画について2点お聞きします。

1点目は、子ども読書活動の現状はどうなっているのか。

2点目は、本市の実情を踏まえた施策とあるが、どういう考えを持っているのかお聞きいたします。

以上で、壇上からの一般質問を終わります。

(拍手)

降壇

◎議長（佐々木隆） 理事者の答弁を求めます。市長。

◎市長（高樋憲） 日本共産党工藤禎子議員にお答えいたします。私からは、新型コロナウイルス感染症検査キットの配付について答弁させていただきます。

無症状で感染に不安を感じる方やワクチン接種ができない方などを対象とした検査につきましては、県が無料化事業を行っており、市内の薬局2店舗のほか、近隣市町村の薬局やPCR検査センターで検査を受けることができます。

市といたしましても、そのような施設を開設すべきかどうかにつきましては、感染状況や検査の需要等、動向を見極めながら検討したいと考えております。また、蔓延防止のために医療機関などで行う行政検査につきましては、今般の感染拡大状況にあっては遅れが危惧されているところであり、社会機能維持のためにも検査の迅速さが不可欠となっております。

そのため、例えば社会機能を維持するために必要な事業に従事する方が濃厚接触者となった場合、抗原定性検査キットを使用し各自で検査することにより、自宅待機期間を短縮するなどの対応ができることから、感染拡大状況下においては、抗原定性検査キットの活用も視野に入れる必要があると考えております。

抗原定性検査キットにつきましては、全国的に感染が拡大した場合には一時的に品薄になることも考えられることから、市があらかじめ一括して確保し、必要に応じ関係機関に配付するなどの対応について、今後検討したいと考えております。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

◎議長（佐々木隆） 商工観光部長。

◎商工観光部長（真土亨） 私からは、新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金の周知についてお答えいたします。

議員の質問にもありましたが、新型コロナウイルス感染症及びその蔓延防止の措置の影響に

より休業させられた労働者のうち、休業手当の支払いを受けることができなかつた方に対し、当該労働者の申請により、新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金を支給するという制度です。

当該制度については、労働者の雇用の維持という観点から、国等の関連する制度と共に市のホームページへ掲載しております。また、新聞広告として新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金と事業者向けの制度である雇用調整助成金も併せて掲載しております。そのほか、本日付で市民の皆様に配布する新型コロナウイルス感染症予防対策強化月間チラシ、今後発行する市報及び黒石商工会議所の商工くろいしに掲載し、事業者も労働者も安心して新型コロナウイルス感染症の拡大防止に対処できるよう広く周知してまいります。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 私からは、黒石市立図書館新築工事についての複数の御質問、それから黒石市立図書館運営計画についての御質問と黒石市子ども読書活動推進計画についてお答えします。

まず、黒石市立図書館新築工事の変更契約の内訳についてでございますが、建築工事につきましては2507万3400円の増額となり、主な内訳は、土工事の掘削中に発見されたコンクリートがら等の地中障害物の撤去により約220万円の増額、ウッドショックによる建具等の木製品の納入が困難となったため、金属製品へ変更したことにより約580万円の増額、備品として購入予定であった電動ロールスクリーン、書架等を本工事へ変更したことにより約1420万円の増額となっております。

次に、機械設備工事と電気設備工事につきましては、機械設備工事が文化会館とスポーツ交流センターの既存配管切替えなどにより約600万円の増額、電気設備工事が屋根ヒーター設備の追加などにより約1700万円の増額となる見込みとなっております。

続いて、屋根ヒーターの作動方法についてでございますが、屋根ヒーターの稼働については降雪量や外気温及び風向き等に影響され、屋根の積雪状態が一律ではないことが想定されるため、一括制御とはせず、道路側と文化会館側、スポーツ交流センター側の3回路にスイッチを分け、状況に応じて必要な箇所で作動できるようにしております。

次に、屋根及び外壁の色についてでございますが、設計方針として屋根のシルバー色につきましては、黒石市の低層の町並みに合わせて、軒を低く抑えた屋根ができるだけ圧迫感を生まないような色であり、その日そのときの本市の空に同化して何色にでもなる、街にとって相性のよい色というコンセプトで選定しているとのことでございます。

外壁の色につきましては、こみせ部分に県産の杉板を使っております。木が時間によって表

情を変え、本市の風景に溶け込むようにだんだんと色が濃くなっていくことを市民の皆さんで楽しんでほしいという考えで設計されております。また、こみせ以外の外壁には、落ち着いた色のあるたたずまいとなるよう、温かみのある茶色をポイントに設計されております。

次に、館内の照明と配色についてでございますが、本に直接太陽光が当たると紫外線で劣化してしまうため、南側・西側は軒を下げ、大きい開口部は東面のみに設けるとともに、館内の照明は全てLEDで、平均照度500ルクス以上になるよう設計されております。

館内の色につきましては、床はコンクリートと焦げ茶色のタイルカーペット、壁はコンクリート打ちっ放しのグレー、天井はライトグレーの吸音板、書架は黒色となっております。これらは、図書館は本が主役であり、また、利用する市民が主役であるというコンセプトから、本や市民の活動が映えるような背景になるよう、奇抜な色を避けた設計になっております。

次に、館銘板についてでございますが、材質はステンレスで、落ち着いた色調の焼付塗装を施した上に館名をシート貼りする仕様となっております。大きさは、幅が40センチメートル、高さ150センチメートルで、地面に直立する形態となっており、本市の町並みや市立図書館の建物に合ったシンプルなデザインとして設計されております。

続いて、黒石市立図書館運営計画について、3点ほど、司書の職員比、それから図書ボランティアの育成、そしてパブリックコメントへの意見に対しての考えについてお答えします。

司書の職員比につきましては、具体的な目標は設定しておりませんが、現在、館長を除く職員6名程度の配置を予定しており、うち1名が司書資格を取得しております。今後も資格取得者を増やしていきたいと考えております。

図書ボランティアにつきましては、読み聞かせの研修会や小・中学生を対象とした職場体験事業等を開催することで育成に努めてまいります。

パブリックコメントの意見についてですが、館長につきましては基本構想・基本計画に掲げる基本理念やサービスを実現できることに加えて、本市の実情を踏まえた組織運営ができる人材を配置してまいります。司書の配置につきましては、先ほどお答えしたとおりでございます。

公共交通の充実につきましては、市では現在、効率的で持続可能な公共交通体系の構築のため、路線バスやぷらっと号を含めた公共交通ネットワーク全体の見直しを進めております。その中で、市立図書館は市街地の新たな拠点と位置づけられておりますので、市立図書館付近へのバス停留所の設置について検討されることとなります。

最後に、黒石市子ども読書活動推進計画として2点ほど、子ども読書活動の現状と施策についてお答えします。

子ども読書活動の現状につきましては、今年度実施した市内の保育園や学校、読書団体等へのアンケート調査及び聞き取り調査によりますと、各団体等において朝の読書活動や読み聞か

せなどの取組が行われているものの、情報共有や連携が行われていない現状が浮かび上がってまいりました。そういった本市の実情を踏まえた施策につきましては、現在行っているおはなし会等の取組に加えて、市立図書館において各施設や団体の担当者や市民を対象とした読み聞かせの研修会を開催し、情報共有とスキルアップ、ボランティアの育成を図りたいと考えております。また、子供たちに対しても、市立図書館の業務体験や読み聞かせボランティアへの参加などの働きかけをしていきたいと考えております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎議長（佐々木隆） 再質問を許します。5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 県の無料化事業は、2月いっぱいまで申込みを切ったんじゃないかなと思うんだけど、それに乗っかることは可能なことなのかお聞きいたします。

◎議長（佐々木隆） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（木村誠） 県の検査キットは3月末まで延長になっていると思われて……。

（「自治体が申請する締切り」と呼ぶ者あり）

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（木村誠） 自治体が申請する締切りですか。それは3月だと思っていましたけれども。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 確かめていただきたいんですけども、私が県に問合せをしたときに、今現在行っているところは3月いっぱいまで延長したと。新たに何か申し込もうとする自治体の場合は、2月いっぱい終わったんですよというふうに聞いたんです。いずれにしても、そこをちょっと確認して、とにかく確保してほしいというので、市長も今検査キットを確保したいということですから本当に期待しているところですし、今、黒石市も増えている、強化月間を始めたところですので、そういう意味ではこの事業をいち早くやるということは非常にタイムリーに市民の命と健康を守ることに幾らかでも貢献できるのではないかなと思いますので、できるだけ早くお願いしたいと思います。

それから、労働者の起業支援給付金なんですけれども、いつホームページに載せましたか。

◎議長（佐々木隆） 商工観光部長。

◎商工観光部長（真土亨） これは制度が始まった辺りから載せていますけれども、ちょっと情報が古いところがありましたのでそれを書き換えております。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 多分これから市民からの問合せもあると思いますので、たらい回しすることなく、担当者なりを決めて対応できるようにしていただきたいと思うんですけどもどうでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 商工観光部長。

◎商工観光部長（真土亨） この制度につきましては、相談には応じていきたいと思いますが、国の制度でありまして、手続の詳細については我々も説明を受けていない状況にあります。ですから、我々も特設サイトを見ながら皆さんにお教えするような形になると思いますけれども、コールセンターが土日もやっていますので、そちらのほうもぜひ活用していただきたいと思います。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） それでは、3番目の図書館の新築工事についてお聞きいたします。

業者は、実際もっと増額金額は多かったと思うんです。それをそのまま承認をすることではなく、やはり行政もいろいろな基準の中で審査したと思いますし、あと業者の企業努力の部分あるいは工事の監査業務である設計事務所の見解など、それらを網羅した形での流れでこういう金額になったのか、ちょっとその内容もお知らせ願いたいと思います。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 施工業者と設計者から提案された工事の変更内容の可否につきましては、増額変更及び減額変更とも十分協議し、市が精査した上で適正に決定しているものでございますので、市から企業努力を求めるといことはございません。

なお、設計事務所の見解としては、増額となった部分は、設計段階、積算段階で予期できない内容であったため、適正な工事価格での増額は必要であるとのことでございます。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） それでは、屋根ヒーターのことなんですけれども、今年のような豪雪も想定しているとすると、つららが下がるような危険な状態は100%起こらないというふうに部分スイッチになりますから。その辺はどうでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 設計方針として、屋根ヒーターは毎年想定できる事象に対しての雪庇・つららを防止するための設置計画としているものでございます。今年のような例外的な豪雪時の雪庇やつららには対応し切れないこともあるとのことでございますので、そういう場合、小まめに目視によって危険になりそうな箇所は手作業でつららを落とすなどの対応が必要になるものと考えております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 屋根の色のシルバーについては、町並みとかあるいはいろいろな色に同化できるというようなことみたいなんですけれども、出来てみないとちょっと感じが湧かないところがあるんですが、壁の色はですね、澤成園とかそういう町並みを考えるにはやっぱりちょっと重厚感があるというか。杉の木の板で、だんだん黒くなっていくということだったんですけれども、もうちょっと明るい色になる可能性というのはあるのかお聞きします。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 承認した設計に基づいて工事、さらには発注なりをしていますので、変更ということは今の段階で難しいと考えてございますが、建物そのもののコンセプトが黒石市の町並みにあった落ち着いたたたずまいになる建物として設計されておりますので、出来上がりをぜひ期待して待っていただければと思います。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 館内の照明と配色なんですけれども、自然光が入らないとLEDですから明るいわけですよ。そういう中で床が焦げ茶、書架が黒、壁は薄いグレーなのか——どのぐらいの色のグレーか分からないけれども、やっぱり利用するのは子供たちが七、八割だと考えられます。そうすると、そういう黒や茶色や濃い色が多い中で、1時間、2時間、3時間もいるという、大人と違いますから、子供たちのそういう——ですから、真っ白とか真っ黒とかはあまり図書館にはなじまないと専門家は言っているんですけれども、それから見るとちょっと書架の黒とかですね、ちょっと気になる部分があるんですけれども、それはどのように、教育施設ですから、教育委員会のイメージとしてはそれでいいんでしょうかしら。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 館内の色につきましても、奇抜な色を避けた温かみがあるというか、落ち着いた色調になるよう調和するように設計されております。床は特に汚れも目立つ部分もありますので、そういう意味で焦げ茶色にしているというところもございます。なかなか色のイメージ、言葉で表現するのは難しいところもございますので、出来た暁には御確認いただければと思っております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） いや、でもね、あまりこういう色ってどうなのかなと、子供たちが疲れやすくないかなと思ったりもするんですけれども、設計は設計屋の要望を、こうしてやりたいっ

ていうのは当然出してくるわけですから、それに対して市教育委員会がこういう色合いとかいろいろ考えた中で、こんな色合いはどうなんだろうというような意見というか、イメージを持つとか、そういうことはしていると思うんですけども、それで全てこれはいいなあ、了解だなあというふうに思っているんですか。お願いします。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 設計屋さんの提案のカーペットなりの色を踏まえた上で、教育委員会としても協議した上で、教育委員会の要望を伝えて、協議の上で色を決定しています。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 設計屋さんもつくれば終わりですよ、役目を果たしますから。職員も退職したり異動したりはありますよね。十分考えたけれども、あらっというようなことになれば、誰も責任を取らない、しかし図書館は残る。そういうこともあるので、どういうのが出来るか楽しみな部分もあるけれども、何かこう、ちょっと色合いも含めて、特に館内の子供たちがいるところは真っ黒だの濃い茶色だのって……。汚れ云々なんて、今は掃除の技術も進んでいますし、汚れが見える見えないってことをあまり気にしなくてもいいと思うので、その辺ちょっと気になる場所なんですけど、この問題はそれ以上どうもならないような気がしますので。

次に、館銘板なんですけれども、今、お話を聞くとですね、まずは150センチメートルという私より小さい、10センチメートルくらい小さいわけですね、そして40センチメートルの奥行きとかそれだとちょっと薄いんじゃない。40センチメートルの……。

（「幅」と呼ぶ者あり）

◎5番（工藤禎子） そうすれば、奥行きはどのくらいなんですか。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 奥行きは7センチメートルでございます。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 位置を考えた場合に、丁字路の角に図書館が建つわけですよ。ですから、薄いものに、低いものに、そして1面だと思うんですよ、道路側に。それだとちょっと見にくい。3面くらいにならないと見にくいのではないかなと。それから、150センチメートルよりもうちょっと、2メートルくらいまでのほうがですね、建物とマッチするといいますか、そういう感じがしますがどうでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 館銘板はですね、あくまでも建物そのものの表示としての板になります。道路につける一般的な看板とは違うものということで御理解いただければと思います。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） そうしたらですね、大きさはやはりそれでいくんですか、そしてどのくらい予算を見ているんですか。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 全体の積算の中で館銘板だけの積算金額というのは、今は資料としては持ってございませんが、変更契約の中で、他の部分が圧縮できれば館銘板についてもあと一回りなり大きくできる可能性はありますので、それは今後検討していきたいと思います。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） あと市立図書館の字体なんですけれども、明朝みたいな、がきつとしたのではなく、何かこみせに合ったような字体でというようなことも考えていますか。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 館銘板の字体については、ゴシック体ということで設計されています。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 私も出来てしまえば、いろいろあっても受け入れるしかないので幾らかでも改善や考えられるところがあればなあというので、今回取り上げないと図書館はスタートしてしまうので、ちょっとそういう意味では細かく聞いているんですけれども、どういうものが出来るか期待をしております。

質問の4番目なんですけれども、運営計画の中で、司書資格を取った方が1名いますということでした。要するに、臨時職員除いて、正職員は全員司書資格を取るくらいの取組をすれば、それだけでも黒石市が10市の中で図書館が注目されるというものでもありますので、職員に努力してもらって、勉強してもらって、資格を取るといような意欲はどうでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 今想定されるのが、スタート時点で既に1名の司書資格取得者がいるということで、その後につきましては、図書館運営計画においても司書を複数

確保することに努めるということにしていますので、今後も順次、司書を増やすように努力してまいりたいと考えております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 先ほどの答弁のニュアンス、状況を見ますと、パブリックコメントでは館長に経験ある人を置いたらどうかという、そういう経験豊富なというか司書としてのというようなこともあるんですけども、館長さんは民間から採用するというか、そういうふうには考えていますか。ニュアンスだと職員をといる感じなんですけれども、その辺お知らせ願いたいと思います。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 館長の人選につきましては、今はまだ具体的なところ言及できる状態ではありませんが、先ほどもお答えしましたが、図書館の基本理念やサービスを実現できる人材——指揮権、人格共に優れた人材を当てることで対応してくれると考えております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 公共交通のところなんですけれども、バス停もそうですし、バスの運行回数というんですかね。そういうのも、ルートとかもあると思うんですけれども、それはどういう議論になっているんでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 図書館を利用する多くの方の利便性も非常に大事だと考えています。そのために、今現在、公共交通全体の見直しを市で進めていますので、その中で、バス停の位置もそうですが、運行コースなども議論されるものだと理解しております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 以上で、5番工藤禎子議員の一般質問を終わります。

◎議長（佐々木隆） これで、通告のありました一般質問は、全部終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

午後3時23分 散 会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

令和4年3月14日

黒石市議会議長 佐々木 隆

黒石市議会副議長 今 大介

黒石市議会議員 黒石 ナナ子

黒石市議会議員 村上 隆昭